**探究的な学習の在り方に関する研究推進地域**

**連携中学校区**：熊野中学校区

**連携地域を構成する学校**

| 学校名 | 学級数 | 児童生徒数 |
|---|---|---|
| 熊野中学校 | 12 | 299 |
| 熊野第一小学校 | 21 | 564 |
| 熊野第三小学校 | 14 | 272 |

（R3.11.1現在で記入）

## １　指導上の課題

各校の育てたい資質・能力や生活科及び総合的な学習の時間の年間指導計画やこれまでの実践を持ち寄り，検討したところ，小学校と中学校の学習がうまく結びついていない現状があることがわかった。育てたい資質・能力や系統性及び発達段階等を十分に考慮し，学習内容を整理し，充実させていくことが課題である。

## ２　研究の概要

### （１）研究テーマ及び研究のねらい

本中学校区で設定した研究テーマは「小中学校で系統性をもたせたよりよい自分を創造するための地域を題材とした単元の開発」である。これは，小学校と中学校の生活科及び総合的な学習の時間の学習がうまく結びついていない現状を改善し，小中学校で系統立てて探究的な学習に取り組み，各校が育てたい資質・能力を育成していくため，設定したものである。

### （２）資質・能力の設定について

「メタ認知」「協働」「表現力」の３つの項目を３校共通のものとし，発達段階を踏まえて，各校で資質・能力を設定している。これを表に整理して示す。（【表１】）

【表１】各校の育てたい資質・能力

| メタ認知 | | 協働 | | 表現力 | |
|---|---|---|---|---|---|
| (熊野第一小) | (熊野第三小) | (熊野第一小) | (熊野第三小) | (熊野第一小) | (熊野第三小) |
| 自分の成長に気付く力<br>分かる・できる力 | 分かる・できる力<br>向上心 | 協働する力 | 思いやり | 自分の考えを表現する力 | 表現力 |
| (熊野中学校)<br>自己分析<br>スキルアップ | | (熊野中学校)<br>協働<br>前向き | | (熊野中学校)<br>表現力<br>クリティカルシンキング | |

### （３）取組について

**【探究的な学習の充実に向けての取組】**

３校で共通理解をもって研究を進めるため，全職員が参加し，５月に理論研修を行った。広島大学大学院の永田忠道准教授を講師にお招きし，生活科・総合的な学習の時間の単元開発や探究的な学習及びPBLの基本的な考え方，小中連携のあり方等について研修を行った。その上で，各校の研究部・研究推進部を中心に，理論研修を生かしながら単元開発に取り組んだ。

**【小中連携の取組】**

年度当初に担当者で資質・能力及びカリキュラムの検討を行った。また各校の職員が相互に授業研究に参加し，意見交流を行った。MeetやClassroom，Ｅメール等を活用し，担当者間で連絡を密にした。

**【資質・能力の評価】**

「メタ認知」「協働」の項目については，各校でアンケート調査を行った。「表現力」の項目については，アンケート調査に加えて小中学校９年間を見通してのルーブリックを作成した。

## ３　実践事例

### （１）小中共通の「表現力」ルーブリック

次の【表２】が，本中学校区において設定した小中共通の「表現力」の項目のルーブリックである。

【表２】熊野中学校区で育成する「表現力」のルーブリック

| 目安 | 【表現力】自分の考えをまとめ，言語表現し，他者に伝える力。 |
|---|---|
| 中３ | 自ら課題を設定し，解決に必要な情報処理を適切に行い，議論によって導き出した解決案を表現を工夫して発表するとともに，見出した解決案の具体的な実現を目指す。 |
| 中２ | 自ら課題を見つけ，解決に必要な情報処理を適切に行い，議論によって導き出した解決案を表現を工夫して発表するとともに，見出した解決案を多面的多角的に検証する。 |
| 中１ | 課題を多面的に捉えたうえで，目的に応じて情報を集め，話し合い，表現を工夫してまとめ，導き出した解決案を発表する。 |
| 高学年 | 自分の考えや調べたことなどを，相手や目的，意図に応じて，効果的な表現方法（資料を活用するなど）を選んで書き表したり，伝えたりしている。 |
| 中学年 | 自分の考えや調べたことなどを，相手や目的を意識して書き表したり，伝えたりしている。 |
| 低学年 | 気付いたことや考えたこと，楽しかったことなどを，多様な方法（言葉，絵，動作，劇化など）で表現し，伝えている。 |

### （２）熊野中学校

第３学年において，単元「“避難したくなる避難所”を自分たちでつくろう！」を開発した。概要は次の通りである。

【単元の目標】日頃から災害に備える意識を涵養し行動するとともに，災害時には迅速に避難し，中学生の自分たちにできる最大限の方法で避難所運営に参画できるようにする。

・日頃から災害に備える行動をとる。
・災害時には迅速に避難する。
・避難所で役に立つ人になる。

町役場の防災安全課の協力のもと，避難所運営ゲームや実際の避難所見学，避難所設営体験等を行った上で，地域の大人（熊野町長，町防災安全課，学校運営協議会メンバー等）に対して，小

グループごとに考えた“避難したくなる避難所”の案のプレゼンテーションを行った。

### （３）熊野第一小学校

第４学年において，「UD公園を作ろう～みんなが住みよい町を目指して～」の単元開発を行った。

課題設定の場面では，みんなが使う場所として「公園」にスポットを当て，校区に位置する公園にはユニバーサルデザイン（以後，UDと表記）があるのかを探す活動から始めた。この活動からUD化があまり進んでいない公園のUD化を自分たちの手で進めていきたいという想いをもたせ，単元における探究的な学びへとつないでいった。情報の収集や整理・分析の場面では，都市整備課や地域住民と連携を図りながら，公園に関するアンケート調査やインタビュー等，可能な限り人とつながる場を設定した。まとめ・表現の場面では，地域の方々や仲間と共に実際に公園のUD化に取組み，地域社会に関わる喜びも実感させた。

協働的な学びの場については，それぞれの児童が，調査活動や体験活動から多様な情報を手に入れ，それらを情報交換しながら学級全体で考えたり，話し合ったりする場面を設定することができた。また，児童が探究したいテーマ毎にグループを設定することで，問題解決に向けて主体的に取り組ませることができた。

### （４）熊野第三小学校

第５学年において，単元「あつまれ　くまさんの森」を開発した。概要は次の通りである。

【単元の目標】収穫祭を調べ，計画，運営することを通して，農業をしている人の思い，作物への感謝，伝統として受け継ぐことの大切さ，地域とのつながりの大切さを自分たちが決めた方法と内容で分かりやすく，表現して伝えていくことができる。

【本時の活動】収穫祭のテーマをもとに，伝えたい内容をどのような方法で，どのような意図で伝えると分かりやすいかを思考ツールを活用しながら話し合うことで，収穫祭のお店の内容を精選した。

## ４　研究の成果と課題等

### （１）成果

#### 【熊野中学校区全体として】

まず，育成したい資質・能力を３校共通の「メタ認知」「協働」「表現力」の３つの項目で整理し，共通認識を持った上で，それぞれ単元開発ができた点が挙げられる。また，小・中学校９年間を見通し，本中学校区として育成したい表現力のルーブリックを作成することができた。

#### 【資質・能力の評価について】

資質・能力の評価について，各校でアンケート調査を行った。

熊野中学校では，第３学年ではすべての項目で，目標としていた肯定的評価80％に到達したものの，第１・第２学年においては未到達の項目も多く，来年度以降改善する必要がある。

第３学年においては，防災・減災をテーマとした学習の直後，校区に避難指示が出された際，実際に避難行動をとったり情報を調べたりした生徒の割合が，他の学年と比べて高かった。（第１学年が72％，第２学年が48％，第３学年が84％だった。）また避難先で避難所設営の手伝いをした生徒もおり，学習が実際の行動につながった点を成果として挙げたい。

熊野第一小学校では，育みたい資質・能力の４項目全てにおいて，年度内最終調査である２月期に，肯定的評価が94％以上に到達した。

第１・２学年における「生活科」では，２年間の児童の発達や成長を見通して単元を配列したカリキュラムを組んだ。認知の違いや特性の違いにも配慮した構成を行ったことによって，人・もの・ことへの関わりを深める学習活動を取り入れることができた。また，第３学年以上における「総合的な学習の時間」の開発単元においては，探究的な学びのサイクルの中で，子供たちから切実感のある協働的な学びを生み出すことができた。これらの学びは，本校の育みたい資質・能力の一つである表現力「自分の考えを表現する力」へも紡がれた。

熊野第三小学校では，まず児童の変容の様子として，次のような姿が見られた。

・教師に言われたからではなく，自分で課題や解決方法を選択し，それに思いや願い，相手意識がある姿が見られるようになった。
・自分の思いや考えた根拠を伝える姿，また「どうして～」「でも～」など主体的に話し合う姿が見られるようになった。
・他教科や前学年までの学習と今の学習をつなげる姿が見られるようになった。

次に資質・能力の評価では，「分かる・できる力・表現力」「向上心」「思いやり」の項目についてアンケート調査を行った。「分かる・できる力・表現力」「向上心」では，全ての項目で肯定的評価80％に到達したが，振り返りの項目で１学期と３学期を比較すると，３％減であり，来年度以降改善する必要がある。

### （２）課題

資質・能力の「表現力」の項目の評価について，ルーブリックを作成したものの，その活用が不十分だった点が課題である。単元終了後の評価に用いるだけでなく，目標として児童生徒に提示し，児童生徒自身が活用しながら学習を進めていけるようにすることが必要である。

また，資質・能力については今年度共通認識を持って取り組むことができたが，具体的なカリキュラムの内容についての検討まで至らなかった点も，課題として挙げられる。

### （３）今後の改善方策等

まず，資質・能力の「表現力」のルーブリックについて再検討し，各校で活用しやすいものにブラッシュアップする。その上で，教員・児童生徒共通の目標として共有し，活用していくことを考えていく。

またカリキュラムも再検討し，共通して取り上げる題材については，発達段階や資質・能力のルーブリックを考慮しながら，段階性を意識した編成を考えていく。来年度は「防災・減災」を共通のテーマとして，単元開発を行うことを計画している。